

平成24年2月12日（日）、大和川沿川にある大阪市立大学学術情報総合センターで3回目となる『大和川水環境改善活動発表・研究・交流会2012』～万葉の時代から現在にいたる水環境の変遷～を開催しました。今回の活動発表会は昨年反響を呼んだ天然アユ遡上の試みとして提案されたアユの産卵場づくりの試行報告、大和川清流ルネッサンスⅡ及び、Cプロジェクト計画2006（水環境編）終了後の大和川の次期水環境計画が発表されることを受けて当日も飛び込み参加が多く、参加者約130人という盛況ぶりで有意義な交流会を開催することができました。

イベントの概要

大和川の周辺は古代の政治・経済・文化の中心地であり、藤原京、平城京などの都をはじめ、東大寺や法隆寺といった世界遺産や日本最大の仁徳天皇陵など、古代より遺跡が多く点在している日本文化の母なる地域です。昭和30年頃の大和川は飲み水として利用される身近な川でしたが、40年代に入り高度経済成長とともに工場や家庭の排水が流れ込み、水質が悪化。人々の関心は薄れ、多くの生き物たちも姿を消しました。しかし、流域の下水道整備や人々の意識の高まりと努力により大和川の水質は大幅に改善され、1972年以降全国一級河川の水質現況でワースト3内にランキングされ続けていた大和川は2010年、公表39年目で初めてワースト3から脱却を果たすことができました。最近では天然アユの遡上が確認され、回復の兆しは見えているものの、生き物の生息環境として多くの改善点が残し、水環境改善に向けた解決策を流域の方々と分かち合うことが大切です。このため、河川環境づくりに取り組んでおられる地域の方々のお話を聞きながら、意見交換会を行なう活動・発表・研究会を実施しました。



事務所の若手職員による司会に始まり、開会挨拶をする大和川河川事務所の鈴木所長。

活動発表・研究・交流会2012

プログラム：13:00 ～17:00

【第1部】講話

万葉歌にうたわれた初瀬川・飛鳥川・佐保川

【第2部】大和川の水環境改善の歩み

【第3部】活動発表会（大和川市民ネットワーク）

○大和川流域全体のこれまでの水環境に関する活動報告（休憩）ポスターセッション

【第4部】研究発表会（大阪市立大学大学院工学研究科）

○天然アユの遡上状況と産卵場づくり試行結果

【第5部】交流会（パネルディスカッション）

○水環境の回復に向けて私たちができること

○大和川水環境改善計画のキャッチフレーズの決定

主催：国土交通省近畿地方整備局大和川河川事務所

共催：大和川水環境協議会

（近畿地方整備局・大阪府・奈良県・流域市町村）

協力：大和川市民ネットワーク、大和川天然アユ研究会

後援：（社）土木学会関西支部、（社）日本水産学会近畿支部

大阪市立大学大学院工学研究科研究プロジェクト

【第1部】講話 万葉歌にうたわれた初瀬川・飛鳥川・佐保川



万葉歌にうたわれた初瀬川・飛鳥川・佐保川

講演：奈良県立図書館館長 国際日本文化研究センター名誉教授

千田 稔 氏

第1部は今回のテーマである「～万葉の時代から現在にいたる水環境の変遷～」として、かつて都のあった藤原京・平城京を支えていた代表的な川「初瀬川・飛鳥川・佐保川」が、当時の都人にとってどのような存在であったのかを、

万葉集でうたわれた歌を紐解きながら、昔の人は川自体が「神」であるという認識があったことを今の飛鳥川に残る風習なども踏まえて解説。川への認識が現代人と大きく異なる昔の大和川を語られ、現在の大和川の水環境を考える上での話題を提供頂きました。



【第2部】大和川の水環境の歩み

発表：国土交通省大和川河川事務所

河川環境課 石飛係長

昭和30年代から現在の水環境、水質改善の取り組みと次期水環境計画について発表しました。



石飛係長

【第3部】活動発表会

○大和川流域全体のこれまでの水環境に関する活動報告

(活動発表者)

大和川市民ネットワーク：辰谷 直子 代表

大和川を守る会：斉藤 佳穂 氏

環境市民ネットワーク天理：佐藤 孝則 氏

(コーディネーター)

大和川市民ネットワーク：澤井 健二 副代表

辰谷代表から大和川市民ネットワークの設立目的から今年の活動報告があり、下流の大阪の大和川本川で18年以上清掃活動が続けている「大和川を守る会」と上流の奈良の布留川で自然再生のまちづくりを続ける「環境市民ネットワーク」から、それぞれの大和川への想いを語って頂きました。

澤井副代表

辰谷代表

斉藤氏

佐藤氏



【第4部】研究発表会

○天然アユの遡上状況と産卵場づくりの試行結果

(発表者)

大阪市立大学大学院工学研究科都市系専攻

環境水域工学研究室 前期博士課程1年 浪田 真由 氏

昨年、提案された「アユの産卵場づくり」について、10月22日柏原市の河内橋付近で大阪市立大学、近畿大学、NPO有志が集まり取り組んだ結果や大阪市立大学が実施している流下仔魚の調査結果等が報告されました。

浪田氏



【第5部】交流会（ディスカッション）

○水環境の回復にむけて私たちができること

(パネラー)

大阪教育大学名誉教授 長田 芳和 氏

大和川水辺の楽校協議会会長 亀井 哲夫 氏

大和川市民ネットワーク事務局長 小松 清生 氏

大和川河川事務所長 鈴木 俊朗 氏

(コーディネーター)

大阪市立大学大学院工学研究科教授 矢持 進 氏

大阪府環境農林水産総合研究所主任研究員 日下部 敬之 氏

第1部から第4部までの報告を受けて、パネラーからそれぞれの立場で、水環境改善への提案がされました。夕陽が美しい大和川をもっとPRしよう、子どもが遊べる大和川にするために、まず、大人が泳ぐべきではないか？大和川の魚を食べてみよう！など、さまざまな面白い提案がありました。

日下部氏



矢持先生

長田先生



亀井氏



小松氏



鈴木所長



第5部 交流会（意見交換）

○大和川水環境改善計画の キャッチフレーズ案について

発表：国土交通省大和川河川事務所

河川環境課 寺井係長

パネルディスカッションの後半はパネラー
たちへの意見や質問が寄せられました。
最後に、大和川河川事務所より、次期水
環境の改善計画のキャッチフレーズ案が
発表され終了となりました。



キャッチフレーズ案
を発表する寺井係長



【展示会場】ポスターセッション

発表会場横の研究者交流室で、14団体の方々の日頃の取り組み活動や研究成果が展示され、それぞれの展示の前でセッションしながら交流を行っていただきました。



約60人ほどがゆったり座れる会場で、賑やかなひと時を過ごしていただきました。

大阪市立大学の学生さんに
受付を手伝ってもらいました。

展示にご出展いただいた活動団体

アクアフレンズ
川と遊ぶ大和川クラブ
環境市民ネットワーク天理
市民ボランティアネットワーク「石津川に鮎を」
ならこーぷ
日本下水文化研究会関西支部
万葉飛鳥川長寿散歩の会
大和川市民ネットワーク
大和川水辺の楽校協議会
大和川を守る会

大阪市立大学大学院工学研究科都市系専攻
環境水域工学分野
近畿大学理工学部社会環境工学科
大阪府 環境農林水産部 環境管理室
大阪府環境農林水産総合研究所水産技術センター

国土交通省大和川河川事務所